

## アートマネジメント・コーディネート人材育成プログラムについて

## 企画趣旨

新型コロナウイルス感染症により活動に支障をきたした文化分野において、今後も活動継続につなげることができるよう、アートマネジメント・コーディネート人材を育成することを目的とする。ポストコロナに向けた事業の進め方について文化事業関係者のニーズに合わせた内容を、テーマを設定し実施する。

## 企画概要

企画名 アートマネジメント・コーディネート人材育成プログラム

主催 奈良市

## 1. 文化事業関係者向け研修

「文化事業の現場から問い直す自治体文化政策」

自治体文化政策の基本的な知識について理解を深めるとともに、全国の文化施設等、文化事業の現場が抱える課題について分析し、ポストコロナ時代の「公共施設」のあるべき姿を考える。

〔講師〕 帝塚山大学 名誉教授 中川幾郎氏

〔対象〕 文化施設職員、市職員 【実績】 参加者数 32 人

〔開催日時〕 7月14日（木曜日）10時～12時

〔開催場所〕 奈良市役所 中央棟地下1階 B1会議室（後日、録画配信あり）

〔内容〕

- ・ 奈良市の文化政策－第2次奈良市文化振興計画－（文化振興課長）
- ・ 文化事業の現場から問い直す自治体文化政策（中川幾郎氏）

〔アンケート（意見）〕

- ・ 「文化芸術基本法」の概要を知ることができた。アートマネージャーの具体的役割について認識を改めることができた。
- ・ 私自身の施設でできていなかったことが浮き彫りになった感じがしました。
- ・ 事業を開催するにあたって日々感じる矛盾（予算、収益、文化を享受する対象など）に対し、大変明快に言語化してくださり、溜飲が下がる気持ちです。が、現場に浸透するにはもう少し時間がかかるような気がします。
- ・ 予備知識不足で、ところどころわからない用語もありましたが、先生のお話を伺って、市民と文化に対する考え方、文化そのもののあり方、我々の使命のようなものが理解できました。
- ・ 自分の中で以前から思っていた文化事業の在り方赤字事業があって当然であるという考えがあり、先生の話が自分の中に入ってきました。

## 2. 市民向け連続講座「ポストコロナ時代の文化事業」

文化事業の進め方について、学識経験者や奈良で活躍する文化芸術活動の実践者を招いて、講座やワークショップを実施する。

[対象] 市民、補助金団体、アーティスト、ボランティア等 各回 40 名

※テーマによりオンラインでの中継または後日配信を検討

### 第 1 回「文化事業とお金の切っても切れない関係」

文化活動を継続していくために必要となる事業経費。行政や企業による補助金・助成金やクラウドファンディング等、資金調達の方法には多くの文化関係者が頭を悩ませている。困りごとである「お金」の話ですが、少し見方を変えると自らの活動を発展させるチャンスにもなりえる。

補助金・助成金を活用することの意義や方法について、2 人の実践者を登壇者にお迎えし、お話いただく。

[開催日時] 9 月 10 日（土曜日）13 時 30 分～16 時（予定）

[登壇者] 上田假奈代氏、小野小町氏

[場所] ならまちセンター 会議室 2・3・4

### 第 2 回「文化コーディネーターの必要性」

アートと地域社会をつなぐために必要な「文化コーディネーター」。芸術を社会につなげることはアーティストだけでは困難である。アーティストを批評し、また受け手も批評することができる回路を担保する人材がいてこそ、アートと社会が循環するプラットフォームを形成することができる。

アートの力を地域に活かすために必要な方法についてお話をいただく。

[開催日時] 11 月 12 日（土曜日）14 時～16 時（予定）

[講師] 帝塚山大学 名誉教授 中川幾郎氏

[場所] 奈良市生涯学習センター

### 第 3 回「文化事業における ICT 活用の可能性と課題」

ポストコロナ時代において必要性が高まる「オンライン」。機材やツール等の技術的な知識のみならず、著作権に対する理解など、オンライン対応には様々な知識が必要となる。

事業効果をより高めるため、オンライン化をはじめとする ICT の活用方法について学ぶ。

[開催日時] 1 月 21 日（土曜日）13 時 30 分～16 時 30 分（予定）

[登壇者] 天理大学人間学部 准教授 杉山晋平氏、学生

[開催場所] ならまちセンター 市民ホール、会議室、ギャラリー「initiate」